

大阪市大家政 ○白木小三郎
島田多津子

1. 生活条件の内、家族条件は家屋構成に大きな影響を与える。特に世代別居の隠居制は、家屋形式に大きな関連を持つ。これを隠居制が、顕著に伝承されている高知県長岡郡大豊村に例を取り検討してみる。

2・3. 調査民家の内、経過年数150年以上とおぼしきもの16戸中、別棟隠居所（「大部屋」「中部屋」）を有する家が8戸、「大部屋」「中部屋」を持たない家8戸であった。その内4戸は元「部屋」の建物を主屋としたものであり、他の4戸は桁行4分割、梁行3分割以上の大きな家構の主屋を持つものである。間取形式からは、主屋「部屋」とも一戸前としての生活機能を持っている。また「部屋」の建物が、そのまま主屋に使用される例が多いのは、世代による生活上の違いが、少なかったことを示すものといえる。しかし、時代が下ると、主屋の間取りは次第に拡大し、分割されて「部屋」の建物が少なくなる。これは世代が重なると、主屋に同居する生活スタイルに変わってきたことを示すものである。世代別居の隠居制は生産力の低い山間部において小農民層の間に慣行化されてきた生産隠居の方式であり、当村における間取形式は、世代単位別居住の基本的な家構といえる。

参考文献 吉田高子氏「山村の民家と隠居制」民俗30号。